

大幡さんの叙勲を称える



昭和五十年六月二日
本部幹事会開催祝賀会
に於ける祝辞

小野三郎氏談

此の度、大幡さんが勲三等瑞宝章に叙勲されました事は御一門の榮譽は勿論、御一家御眷族のお喜びもさこそお察し申上げる次第であります。従って私共辰巳会の幹事一同と致しましても永年苦業を共にして来た盟友の大幡さんのお喜びにあやからせて頂く事は、真実喜びに堪えませぬ事、今日茲にさ、やかな祝宴を開く機会を得

ました事はお互に誠に欣快に堪えぬ所で御座います。

甚だ潜越では御座いますが御出席の皆様を代表して一言御祝いを述べさせて頂き度いと存じます。扱、私の忌憚なき気持ちの一端を述べさせて頂きますれば、この度の大幡さんの勲三等に叙勲された事はむしろおそきに失する厭いなき能わらずと思うのであります。大幡さんは十数年も前に既に勲四等をお受けになつて居り、この度は云わば御昇格と云う事でありますので、それならもつと早くもつと上の級に叙せられても少しもおかしくない筈で、大幡さんをごよく知って居る私共と致しまして、まだ物足りない位だと思つて居るのが正直な処であります。尤も、政府のやる事や賞勲局のする事ですから今更私等が不満を申しても何の役にも立ちませんが……何故かと申しますと、それは、大幡さんが昭和十八年の戦争末期の困難な時期に、帝人を代表して化繊協会の幹部を御引き受けになり、又検査協会の会長として就任せられ、我が化繊業界の苦しい時代から今日の発展に漕ぎつ

く迄の永い間、実に三十年に余る年月を一途に切り抜けて育つて上げて大きな功績を積んで来られた事は業界にたゞさる者万人の認めるところであります。特に私の記憶でる処であります。特に私の記憶でる処であります。特に私の記憶でる処であります。

はつきりして居る事は、敗戦直後マッカーサー元帥の占領政策の一環として化繊工業の復興に着目せられた時の事でありました。マッカーサー元帥はこの時アメリカン・ビスコース社の重役ミスター・ローズ、及び同社の技術者ミスター・クロードソン、そして又日本内地の事情に精通するレオニア・パルプ会社の営業部長ミスター・テラー等を招集せられ化繊工業の復興対策を講じられたのであります。其の時、大幡さんは事実上の化繊業界の代表とも云うべき日本化繊協会の会長をして居られたので、先に申上げた復興対策委員会の顧問としてその委員会へ列席せられ、そして、日本全国津々浦々に散在して居る処の当時殆ど廢墟にも等しい工場を詳細に視察せられ、復興可能な見込みのあるものには資材を廻し資金の面倒を見て力を貸し与え、全く私心を滅して奔走されました。何と申しましても、大幡さんの語学の才能はすっかり外人から親しみを持たれ、又絶対の信頼を得られたのは余人の

真似の出来ない処であります。こうして一生懸命復興促進に努力されましたが、一面公平無私、世評を物ともせず己の信ずる所は断じて行つたと云う式で、酷しい迄に厳格であつた為に随分煙たがられもせられ、一時はGHQよりOHQの方がこわいと云う噂が立つた程でありました。OHQとは旨い事を云つたものです。兎も角、大幡さんが万難を排して我が国の化繊業界の爲につくされた功績は到底私等が説明出来ない程偉大なものであつた事は堅く信じて疑わぬ所でありました。

然し乍ら、今度の叙勲は以上の様な功績はすつかりイグノーアされ、資源調査委員会時代の功績が対照となつて居る様に聞いて居りますが、この度は有難く勲三等を拝受されまして、この度は先刻申上げた様な事を充分取り上げて頂いて一級も二級も上の勲章を御受けになられます様御祈り申上げます。尚資源調査会のお仕事の内容はよく存じ上げませんが、資源の乏しい我が国に取りましては之も重要な御仕事には違いない事でありますので、今後益々御健康に氣をつけられまして、国家の爲にも御長命でお仕事を続けて下さいませ、心から御願い申上げて私の

御挨拶と致します。誠に簡単ではありますが駄弁を述べさせて頂き有難う御座います。

大幡久一氏 略歴
昭和十八年 帝人株式会社を代表して入絹、絹統制会へ赴任、織維統制会、織維協会の各理事、総務部長を歴任
同二十三年九月 化学織維検査協会理事長、経済安定本部資源調査会織維部会長
同三十二年 科学技術庁資源調査会織維部会長
同三十六年十月 科学技術庁資源調査会高分子資源部会長
同四十二年六月 退任
現在 化学織維 検査協会相談役、高分子資源部会専門委員、織維工業標準研究会々長、辰巳本部幹事長
昭和三十四年 藍綬褒章受章
同四十年四月 勲四等瑞宝章に叙せらる
同五十年四月 勲三等瑞宝章に叙せらる
明治二十五年十月生れ 満八十三歳
附記 この後、大幡さんから、御夫妻で宮中へ参内された時の有様をつぶさに聞く。豊明殿へ伺候

された時の感激、天皇陛下に拝聞御言葉を賜り「軽食」と云う名の豪華な御賜餐を全部余さず頂戴された等、生涯の御榮譽の数々を目のあたりに見る思いがした。そして恩賜の煙草のお裾わけを頂き勲記、勲章を拝見、興奮と感激の渦巻く楽しい一席を終つた、心あたたまる一時であつた

(文責・木畑龍治郎)

所感

大幡久一

昭和二十三年九月経済安定本部の資源委員会の委員となり、織維部会ができてその部会長になりました。其後、制度の変更があつて資源調査会となり、所属の役所もかわりましたが仕事の内容はそのままでありました。昭和三十六年織維部会が発展的に解消して高分子資源部会となりましたが引續いて部会長をやらされました。昭和四十四年星野さんが部会長になられ、私は専門委員となつて今日に至つております。

数えて見ますともう二六年にもなります。その間、私としては資源委員会の目的に向つて、また部会の使命については、私なりに出来る限りの努力をしてきた積りであります。その信念は現在でも少しも變つておりません。また専門

委員の皆さん、会社のことなどは念頭におかず、私心をはなれ、ひたすら部会の目的に向つて励んでこられました。言をかえれば国益のためにつくされたのであります。しかもそれを楽しんでやつておられたように見えました。部会はいつも時間正確に開会され評判になつて居る位でした。私が一度一〇分位遅刻して大いに問題となつたことなどは今日では、ほ、えましい思い出の一つになりました。私が部会長をやつて居る間、このい

たらぬ私のために皆さんがご協力下さいました。そのお陰で長い長い期間を無事つとめることが出来ました。誠に有難いことで、感謝に堪えぬ次第であります。心底から厚く厚くお礼申し上げます。(織維工業標準研究会々長、昭四九・八・二八)
(昭和四十二年当時資源局資源統計課長「資源」昭和四十二年一月月号所載)

新幹事御紹介

今回東京支部幹事として煙石隼人氏に御免倒を御願ひすることに致しました。

(五〇・四・一)

小説「鼠」好評

文春社文庫本として再現

久塚 磨

皆さんご承知の城山三郎氏著「鼠」は、昭和二十九年十月から、文芸雑誌「文学界」に連載され、経済界はもとより一般読者から好評を博し、延々十八ヶ月つづき、昭和四十一年三月号で終了しました。文春社では各方面からの要望にこたへて、これを一本にまとめた行本「鼠」として出版しました。この本もますます好評を受け、毎年増版されつ、きました。版元でこの盛況に鑑み、本年から文春「文庫本」として改訂、安価増刊に決し、着々之の準備を進め、いよいよ本月から文庫本「鼠」(定価三四〇円)として大々的に広告を出しました。早速一本を購読して読んでみました。内容は元版と同じであるが、きめの細い配慮訂正をなし、完璧を期しております。

之上著者の親友、作家、評論家の小松伸氏が巻末に筆者城山三郎氏の詳細な紹介と作品の簡潔明瞭な解説を書きこの小説を一層光らせています。すでにお読みの方は勿論、売切れ品不足のためご入手できなかった皆さんは、この際は非一本をもとめてお読みにな

舍利器

〔正木美術館蔵〕

統一新羅時代

青銅鍍金 高一六cm 辺一四・五cm×一四cm、新羅の仏教が伝来したのは六世紀初めであるが、六七五年三國統一の後仏教は宮廷を中心にますます栄えていった。仏教関係の金工品の中でも、舍利を安置するための舍利器は礼拝の対象として特に精巧に仕上げられたものが多い。基壇は蓮弁で被われた台座、卍の透し彫のある欄干からなり、中央に蓮華座があり、これに舍利器を安置する。四本の柱に支えられた宝蓋は菱形の透し彫と蓮弁で飾られており、四隅から柱にそって瓔珞がおろされている。松林寺五層塔塔内から発見された舍利器と同型でこれには中央の蓮座に緑色のガラス製容器が安置されている。



岐阜安田学石さん 古美術の蒐集に就いて

昨年4月中部支部例会の際大垣に立寄り安田家御所蔵の名品を観賞させて戴いたことは未だわれらの記憶から去らないものがありますが、去る6月8日、中日新聞の日曜欄はこの隠れたる古美術蒐集家の功績を広く江湖に讃えられた。誠に御同慶に堪えないと存じます。